

2012 年度 E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修 「スクールリーダー育成のための基礎講座」・「学校教育研究フェスタ」、 及び「第 8 回実践交流会」 アンケート結果概要

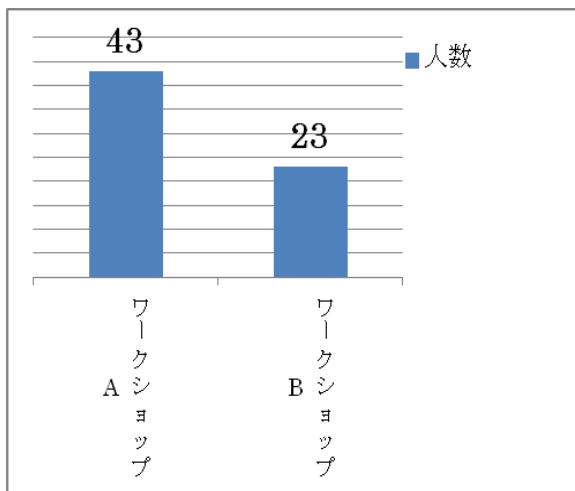
2012 年度 E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修において、各研修の終了後に研修評価アンケートを行いました。8 月 18 日(土)～20 日(月)の「スクールリーダー育成のための基礎講座」・「学校教育研究フェスタ」、ならびに 2013 年 3 月 23 日(土)の「第 8 回実践交流会」において、受講者の皆様にご記入いただいた回答結果の概要をお知らせいたします。

「スクールリーダー育成のための基礎講座」及び
「学校教育研究フェスタ」

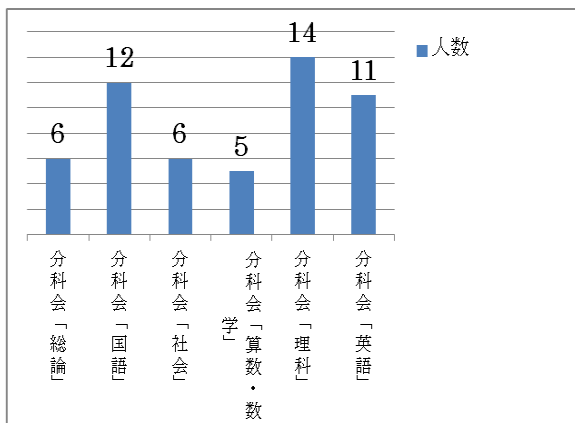
1. 開催日ごとの参加人数 ※半日のみ参加も含む

8 月 18 日	88 名
8 月 19 日	78 名
8 月 20 日	17 名
* 回答者数	76 名
	総参加者数 113 名

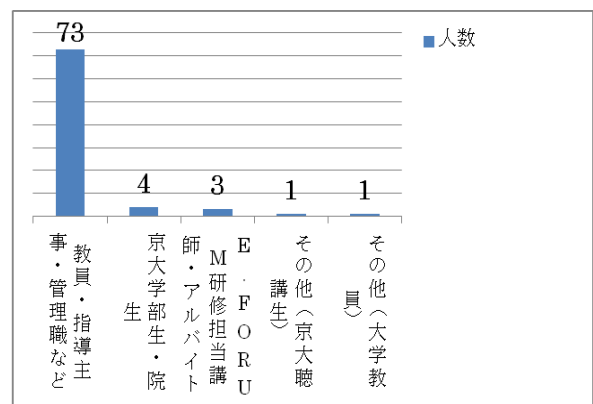
a. 回答者の参加ワークショップ



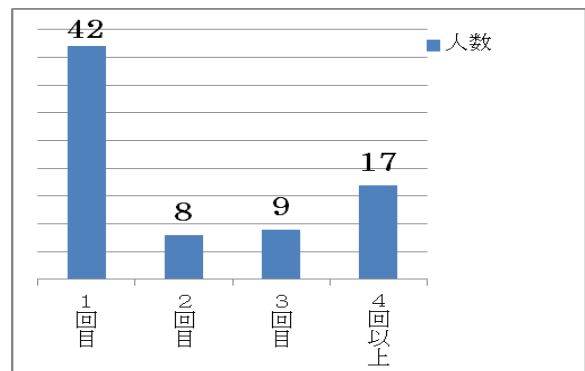
b. 回答者の参加分科会



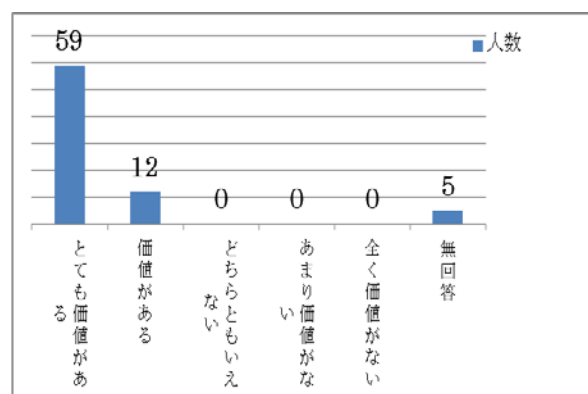
2. どのような立場で参加されましたか



3. 回答者の E. FORUM への参加回数



4. 研修全体に対する評価



(以下は自由記述による事後評価アンケート)

5. 研修全体についての評価

自身にとっての成果(抜粋)

●全体に関して

- ・ 専門科目でないが、授業のプロセスを研修できた。
- ・ 教育を取りまく課題についての新たな視点での気づきを得られる。
- ・ 分科会等の交流で、色々な校種、立場の方々と意見交換をし、自分の考えが整理できること(時間がもう少しあれば、もっと深まるのですが…)。
- ・ 教師は日常の中で時間がすぎていくので、本研修のように大学の知的財産にふれる機会はとてありがた。
- ・ ネットワークが広がったことと、パ課に取り組む本質的な問いに答えられそうな実感が持てたこと。
- ・ 全国の仲間とつながっている事、京大のスタッフと研究を進めることができること。

●ワークショップ A 関連

- ・ 本質的な問いやパフォーマンス課題といった新しい知見を得られた。
- ・ 逆向き設計による考え方、実際の指導でも目標からその評価を考え、指導法につなげていくことが大切だと思った。
- ・ パフォーマンス課題を設定していくときの留意点や道筋が捉えられた。
- ・ 「本質的な問い」と「永続的理解」についての理解ができた(具体的イメージができた)。
- ・ パフォーマンス課題について初めて具体的に(少しだけ)考えてみる事ができたこと。
- ・ 知識は時間をかけると発見になるということ。子どもたちのためにどこでどう時間をかけていくべきか、しっかり考えたい。
- ・ ルーブリックやパフォーマンス評価についての知識獲得。他の先生の実践を学べること。
- ・ 他教科・他校種の方々の実践を見られたこと。同じ枠組みの考え方で他の教科のパフォーマンス課題を共有できたのは刺激的でした。
- ・ 「本質的な問い」全く新鮮な響きでした。2日目の分科会で望月先生に教えて頂きすこし前進しました。
- ・ カリキュラム改善について「逆向き設計」やパフォーマンス課題の理解をしたこと。評価について改めて考え直すきっかけとなったこと。
- ・ パフォーマンス評価と今まで行っていた授業づくりがそう大きく異なるものではないことがわかった。自分流にやっていたことに理論というか価値づけできたことがよかった。
- ・ パフォーマンス課題のあり方について、じっくり考えることができた。繰り返し問い返す中で、よりはっきりしたものが見えてくる。繰り返し自身に問い返す場として有用であったと思う。
- ・ パフォーマンス課題に実際に取り組めたことや実践をまとめる中で新たな課題が見つかったことです。他の先生の取り組みを話し合う中でパ課の成果や課題がすっきりしました。
- ・ 資料を読んでいまいちとつスキリわからなかったパフォーマンス課題とその作成の仕方が理解できたこと。
- ・ カリキュラム設計の考え方が少しわかりました。でもまだまだ難しいと感じていますので現場で実践していく上で慣れていきたいと思っています。

- ・ 子どもを理解することとは何か、教育すること、教科することとは何かということについての根源的な問いについて考えることが出来たこと。

●ワークショップ B 関連

- ・ 博物館の「楽しみ方」と教材化を同時に体験することができました。
- ・ 教材開発の重要性について確認できた。多様性とはどういうものかを考えることができた。
- ・ 博物館の見学のさせ方を通して、教材開発の仕方を学びました。一つのことを深く追求させ、名前を教えるのではなく学び方、考え方を自らの発見を通じて感じさせること。
- ・ 今まで何度も教えてきた教材を違った視点で見直すことができた点がとても大きい。切り口によって教材は本当に様々な使い方ができる。
- ・ 「時間をかけて観察することは発見につながる」「推理できる環境づくりが話し合いを活性化する」等、授業づくりの指針が見つかったことです。

※学生の回答

- ・ 国語科における本質的な問いを考える上で必要な観点を得ることができました。小・中学校の実践を聞く機会は多いのですが、高校での実践を聞くことが少ないので、分科会でお聞きすることができてよかったです。
- ・ ルーブリックやパフォーマンス評価についての知識獲得。他の先生の実践を学べること。
- ・ 現場の先生方がどのような発想で授業づくりをされているかを、教える側の立場から間近に見ることができた。同世代との情報交換や本では知られないリアリティーにふれられました。

自身がこれから取り組みたいこと(抜粋)

●全体に関して

- ・ 個人、学年ではなく、学校全体で取り組んでいきたい。
- ・ E.FORUM でのこれまでの学びを現場に帰ったときどう活かすか。
- ・ 知っていることと知らないことの境界線の課題を取り上げるということ。子どもが知っているとさえ時間をかけないのではなく、新しい発見ができる課題を考えて提示していきたい。
- ・ 現場で日々の授業づくりのなかで、取り入れることが本当にできるかが課題。
- ・ 実際に授業でどこまで時間をとって思考力を身につけさせたらよいか、考えさせられました。
- ・ 受講するだけでは自分のものにならないので、これを(研修内容を)整理、復習し、実践していくことが課題です。
- ・ 教師の成長に関わって、確固たる芯をつくることと他者からの批評を受け入れるしなやかさをどう形成するのか、現場でどう育てていけるのか。
- ・ 管理職の立場でもなんとか実践に取り組んでいきたい。
- ・ これをやるためには「いいかげんな授業をやれないぞ!」と思った。

●ワークショップ A・B 関連

- ・ パフォーマンス課題の設定と評価の一体化。
- ・ 今回は初めてで、なかなかパフォーマンス課題を作ることが困難だった。まだまだ学びが足りていないと思う。いただいた資料を読み込もうと思います。

- ・ 教育現場でどのようにパフォーマンス評価、カリキュラム設計を取り入れるか。
- ・ パフォーマンス課題を作ってみることが大事だと思えたので、やってみます。その中で多くの疑問がもっと明確になる気がします。
- ・ 教員研修にルーブリックを用いてより力量が上がるしくみにすること。
- ・ 思考力、判断力、表現力の育成のために自分達の研究にパフォーマンス課題のエッセンスを入れていくこと。
- ・ 「本質的な問い」「永続的な理解」の見極め、明確化。どの教科のどの単元でパフォーマンス課題を活用するか。
- ・ パフォーマンス課題を解決できる力を育てる、日常の授業の在り方。
- ・ 校内で他教科にパフォーマンス評価を広げること。
- ・ 効果的・適切なパフォーマンス課題の作り方、パフォーマンス課題の評価の仕方。
- ・ 校内研究(現職研修)をどう充実させるか。E.FORUMで当たり前のことが全国ではまだまだ実現されていない。
- ・ ルーブリックの作成・記述方法や観点の立て方について学びたい。
- ・ 博物館の利用はもっとがんばれば完成しそう・・・。

※学生の回答

- ・ 国語科における本質的な問い、永続的な理解とは何かについて構造化すること。
- ・ 長期的なルーブリック作りの設計。
- ・ 比較的パフォ課題を工夫しやすい英語ですが、それゆえに欲張りすぎて、わかりやすい(教師・生徒双方にとって)観点の分け方を見失ってはいけないと思いました。

研修の良かった点(抜粋)

- ・ 時間的にゆとりがあり、まわりの方とテーマについて話をする機会があり良かった。
- ・ ワークショップ形式で作ったものがかたちに残ること。
- ・ 実際の子どもの姿を想定しながら、一人一人がしっかりとした流れの中で考え、時には意見交流をしながら考えていくことができた。
- ・ 西岡先生の解説とワークショップでの課題のバランスがよい。課題が大きすぎない。
- ・ 演習をしながら話をきくことができること。自分の課題になっていること。
- ・ モデルケースを体験させていただき、実際に自分たちで考えるという形式・発見の喜びを感じることに。
- ・ 資料が豊富、講師陣が素晴らしい、参加型である。
- ・ 参加型のワークショップでは様々な人々との意見交流ができて刺激になって良いと思う。
- ・ 身近な題材を用いて、時間をかけて探求できた。
- ・ 自由な意見交換ができること。特定の価値観への誘導がなされないこと。
- ・ まず始めにすべての関係者、参加者同士で自己紹介があるのがいい。人数が多いのにアットホームな感じ。
- ・ 比較的ゆったりと日程が組まれているところが良いと思います。
- ・ ワークショップが豊富であり、アットホームな雰囲気を受講できた。

- ・ バリエティに富んだ講師の先生方による目からウロコの知見に触れられること。知的好奇心がふくらみます。
- ・ 基本が個人の“学ぶ”スタイルであるところ。
- ・ 少人数のグループで話し合うことで今自分が一番悩んでいることや疑問に対して、ディスカッションができたことです。
- ・ 自らの専門外の先生の話がうかがっていても、自らの専門に生かせるネタをたくさん得ることができることです。
- ・ 初心者にも上級者(?)にも対応できる内容と進め方であること。
- ・ 毎回新しいことを吸収できること、「カリキュラム設計」の理解を塗り直していけること。
- ・ いろいろな方とお話できること。批判ではなくて前向きな方向で話がすすめられること。
- ・ いろいろな校種、職種、老若男女(?)が垣根なく交流しながら研修することで視野が広がることです。講義と演習の比率がよい。何度来ても新しいことがある。
- ・ とても温かい雰囲気です。初めてでも安心してとりくめることがありがたいです。特に西岡先生の優しいお人柄が伝わってきて、いやされました。
- ・ ゆったりと時間が進められていること。じっくり研修できたと満足感が得られた。参加者にマイクがまわり、話す場があったのも親しみを感じる研修会であった。
- ・ 少人数のグループでしっかりと話し合いに参加できること。
- ・ 西岡先生のわかりやすい理論の解説のあと、ワークショップがあり、教科等別分科会で深められ、データベースの活用方法まで教えて頂いたので、初めて参加した者にもわかりやすかったです。
- ・ 時間厳守なのが特にうれしい。スタートがなんかいい感じでした。いろいろな方面からの話題を示していたで刺激を受けました。
- ・ 色々な分野の先生方の話が聴ける事。又、気楽な雰囲気に参加しやすいです。分科会研修もよかった。
- ・ わからないときにすぐに対応してもらえること。
- ・ 初心者にも判りやすくとても丁寧であった。
- ・ 誰もが主体となる学び合いがある楽しさ。講師の先生方、事務局の方々、院生の方々、全国から学びに来られた先生方の熱意の協働が創る楽しさ。
- ・ 三日間では物足りない気がしています。とても興味深い研修でした。

※学生の回答

- ・ 講演、ワークショップ、分科会など、様々な方法で学びを深められた点が良かったと思います。
- ・ 毎回イベントが工夫され、あきない点。
- ・ 直接意見交換できる時間が多く確保できる。「パフォーマンス課題の検討」だけで議論を深められました。絞られたテーマだと助かります。

研修の改善すべき点(抜粋)

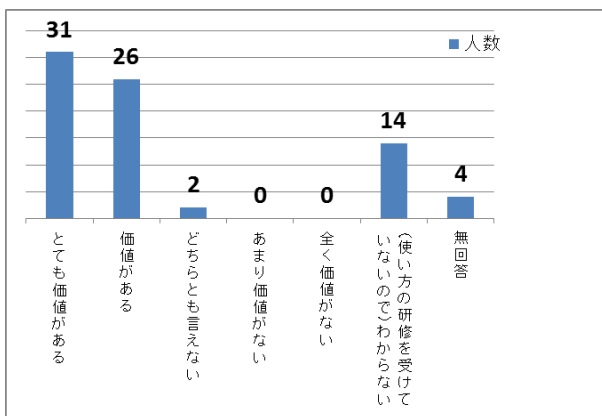
- ・ 時間ももっとほしかったです。
- ・ もう少し具体的にパフォーマンス課題の例や実践をみてみたかった(紹介されている例が少なかったのも)。
- ・ ワークショップでのメンバーをどのように構成をするか?
- ・ 時間設定がけっこうタイトである(内容が盛り上がったワークショップ B)。

- ・ 休憩時間を入れていただけたら有り難い(ワークショップ B)。
- ・ ビギナーとアドバンスのコースがあると良いのでは？ ビギナーコースでは一定の決まったテーマでルーブリックづくりを行い、その成果を主催者側でつくったルーブリックによって評価されるような実践があると良いのでは。
- ・ 初日から教科別のグループ編成で研修してもよかったですのではないかと。
- ・ 長期的ルーブリックの作成方法などもあればありがたいと思います。また(実践例を示していただきながら)課題別のルーブリックの研修もあればありがたいです。
- ・ 校内研修やマネジメントについても「逆向き設計」の発想で行うことができたらと思っています。実際にシミュレーションできるような研修があるとありがたいです。
- ・ 欲張りかもしれませんが、1日目の「思考力・対話力を育てる教材開発」の方も2日目とかに入れてもらえたらよりうれしかったです。
- ・ 2日目は教科等別分科会の時間を長くした方がよいと思います。
- ・ 資料がややばらけていて、どこの冊子の何ページを参照すればよいのか迷うことがあったこと。資料に付番していただくだけでだいぶ違う気がします。

※学生の回答

- ・ グループ同志の発表、議論のための時間が短く、最後の最後で消化不良感がありました。
- ・ ワークショップ、分科会とも時間が足りなかった。
- ・ 各会場、各日のつながり。3日目の使い方。
- ・ 分科会で初日に作成したパフォーマンス課題を検討してもらえと思ったのですが、「学部生のはつまらないから、現役の先生の話聞きましょ」と一蹴され、学部生が参加しづらいものでした。[中略]今後も学生を射程に入れるなら、“後輩を育てるコーナー”を小規模でも設けるべきだと思います。

6. 「カリキュラム設計データベース(CDDB)」や「E.FORUM Online(EFO)」について、現時点でのあなたの評価



7. 「E.FORUM Online(EFO)」についての評価

- 良かった点(抜粋)**
- ・ 他府県の方と同じ目的を持った中で交流することができること。

- ・ まだまだ活用させていただけていないので、ぜひ活用させていただきたいと思いました。
- ・ どの地域にいても交流できること。
- ・ 新たな EFO では、さまざまなファイルが使用できるのはありがたいです。
- ・ すべてが新鮮。いろいろな校種、全国いろいろな地域から集まって研究の資料が得られること。
- ・ 今度使ってみます。このところご無沙汰です。でも、すべての問いに西岡先生がいてねいに答えてらっしゃるのはいつも見て読んでいます。ありがとうございます。
- ・ まだよい点、改善点に気づくほど活用できていません、すいません。
- ・ マニュアルが詳しいので是非チャレンジしたいです。
- ・ パ課題について他の実践者のもの参考にすることができる。
- ・ アットホームな雰囲気です。
- ・ 安心して情報を入れられること、得られること。多くの人と共有していけることがすばらしい。
- ・ 西岡先生をはじめすごい先生方にいてねいに教えて頂けことがすごくよかったです。自宅でたくさんの人と会話ができること。
- ・ より簡単に操作できること。作成者の先生方の熱意が込められていることです。
- ・ 作品のアップが簡単になったこと。
- ・ 入力の方法がわかりやすかったです。
- ・ 取りくみが蓄積していき、いつでも(スマートフォンからでも!)参照できること。

改善すべき点(抜粋)

- ・ うまく利用できていないので、すみません。
- ・ 打ち直すのに時間がかかる(改善)。
- ・ 人のは見たいが、自分のものを出すのはちょっと…という方が多いかもしれません。気楽に参加できることが少しでも広まっていけば、と思う。
- ・ 自分がどれだけ参加できるか。
- ・ E.FORUM にまだ参加していない同僚に実践をアップロードしてもらう時などに、やや用語(UbD など)がわかりにくいかもしれないと感じました。
- ・ はじめての参加で、とにかくスタートです。

8. 特に印象に残った部分について(抜粋)

ワークショップ A「カリキュラム設計」: 西岡(抜粋)

- ・ 西岡先生、本日はありがとうございました。午前・午後とお話を聞かせて頂き新たな発見や理解を得ることができとても有意義な1日となりました。本日学んだことを教職員にうまく伝え指導できるか少し不安ですが頑張ります。今日初めて参加されたまわりの方々が「京大に来るというのですごく緊張していたけれど西岡先生の温かいお人柄がそここに伺えとても楽しくて良かった」とおっしゃっていました。私もそう思いました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。
- ・ 校内研修では理解できなかったところが少し分かるようになりました。ありがとうございました。
- ・ 学級経営を研修しているのですが、子供たちの何を、どう育てたいのかを明確にすることにより経営もはっきりとしてきました。
- ・ 具体的事例が豊富でかつ先生の説明がわかりやすく、本校に来て研修をお願いしたいと思いました。ねむくなんてなりません。ありがとうございました。

- 1 日だけの参加ですが、パフォーマンス課題、ループリックへの第一歩を踏み入れたように感じました。来年もぜひ受講したいです。ありがとうございました。
- 全体を概観しながら自分でやってみることで、キーワードのつながりが見えてきた!!
- 初めての私にも大変分かりやすい内容、スピードの講義でした。パフォーマンス課題は難しいイメージがあったので、特に易しく教えてくださり助かりました。活用力の向上にはもってこいだと思います。スタッフの方ももちろんですが、周りにいるベテランの参加者の方がすごく積極的にアドバイスしてくださって、E.FORUMの参加者の方はとてもいい方ばかりですね。私も早くパフォーマンス課題を取り入れ、楽しさを実感したくなりました。
- 初めてでありとても新鮮。興味がよりわきました。パフォーマンス課題についてももっと知りたくなりました。
- 西岡先生のお話を聞きながら何度かパフォーマンス課題について考えています。毎回、新たな発見があります。少しずつ、自分の実践にも取り入れていけるようになりました。
- ありがとうございます。3~4回目の参加になりますが、こんなこと自分でできるわけないと最初思っていたのが今回で細々やってきた自分の実践の基になることがわかってきました。西岡先生のお話がずっと入ってきてうれしかったです。
- 各自にループリックづくりするのも良いですが、例えば、生徒成果物をならべて、複数の教員で一つのループリックをつくる、模擬活動があっても良いのではないだろうか?
- これまで聞きかじっていただけの「パフォーマンス評価」「ループリック」…等の言葉の意味や中身がスッキリわかりました。頭の中が整理されました。
- カリキュラム設計のテンプレートを設ける事で考えをまとめることができます。
- 2年ぶりに西岡先生のご講義を受けて、モヤモヤとした理解の中で実践していたことが自覚できました。モヤモヤがスッキリしたような爽やかな気分になりました。
- パフォーマンス評価について、少しわかった気がします。実践が増え、みなさんが悩んだところを解決していければさらにいいと思います。評価というかたいですが、見えなかった子どもの力をみよう、もっと子どもたちが輝ける場をつくっていかうということだととらえました。
- 逆向き設計は確かに普段意識せずに取り組んでいるので違和感なく理解できた。理論としての“本質的な問い”や“永続的理解”は理解できるが、いざ自分の教科の中で言葉で表現しようとするとなかなか難しかった。
- 同じ話を聞いていると思いきや聞く度に新しい発見があります。西岡先生の中でもカリキュラム設計の世界が日々更新されているのだなあと思います。E.FORUMに参加してこそ知ることのできることです。
- 自分の授業観が変わりました。中学校の国語教育を基盤から考え直すきっかけになりそうです。

※学生の回答

- 何度かパフォーマンス課題の作り方や逆向き設計の考え方についてのお話を聞いていますが、聞くたびに理解が少しずつ深まるように感じます。昨年参加したときには全く作れなかったパフォーマンス課題や、本

質的な問い、永続的理解について、A3×2枚埋まりました→分科会で課題も指摘していただき、さらに学びたいと思いました。

ワークショップ B「思考力・対話力を育てる教材開発：総合博物館を探究する」：大野・石井（抜粋）

- 私にとっては敷居の高い博物館ですが、楽しみ方と活用の仕方、また大野先生には授業の理想の形を教えてくださいました。
- 楽しかったです。知っているようで知らないことを知ることができた。教材の開発を他の学校の先生とすることは刺激があつてよかった。
- 大野先生が楽しく教えて下さいました。午後は博物館を題材にみんなで良い教材づくりができ力がついた気がします。
- 頭を使え、楽しかったです。
- 久しぶりにわくわくしながらワークショップに参加し、頭も心もフル回転できました。
- 参加した教員の思考力・対話力を育てるようなワークショップであり、良かった。今日の感動を子どもにどう伝えるのか考えてみたい。もう少し時間があればもう少しいろいろできたかと思う。
- 大野先生のユニークな語り口にのせられながら、知らず知らず楽しくかつ興味深い教材開発ができました。こんな授業を子どもに受けさせたいです。
- じっくり観察・推理して思考することが大切だと思いました。そのことをどれぐらい日頃の授業で子どもたちに促すことができているか…、反省をしました。「時間をかけること」が大切だと実感する研修になりました。既知のことをあえて未知のものだと提示してみる授業を仕組みつもりです。
- ワークショップに実際に参加し、身近なものであるハマグリでも扱い方によって様々なことを考えることができることを知った。日々の授業で扱う教材の重要性とその解釈は大切であることを実感→新しい教材開発をしていきたいと思った。
- 博物館を「百倍楽しむ」ワークショップを大野先生のリードで味あわせていただきました。初対面の数人のグループがコミュニケーションを図りながら、個性を徐々に発揮し創造する醍醐味を感じました。
- 大野先生の授業の進行（発問）を参考にして、自分の授業の進め方ももう一度考えたいです。
- 知識を深めるとは何か、学ぶとは何かもつとも根本を教えてくださいました。
- 以前「三葉虫」のワークショップを体験させて頂き、とても楽しかったです。今回の「二枚貝」も貝殻の観察からこれだけ深められるんだと勉強になりました。博物館にも何度か生徒を引率しましたが、ここまで深められませんでした。次回は「カキ」と「昆虫」については事前学習を行って、見学させようと思います。

講義「子ども・規範・暴力—蝶の絵本に見る<教育>と<非-教育>の間—」：山名（抜粋）

- あの絵本はぜひわが子には読んであげたいです。クラスで読むには賛否両論あるでしょうが、教育としてのねらいをもってよめば価値があるのではないのでしょうか。

- とにかくインパクトのあるお話でした。何かを言いたいが、何を言っているのかという今の気持ちです。職場の先生に紹介してみます。
- 絵本の変化と社会の変化との関連について考えさせられた。自分達の教育現場も社会に左右されることも考えさせられた。
- 現代における教育、躰、暴力に関しては矛盾を抱えたまま現代に引きずられているように思われます。難しい課題ですが、目をそらしてはいけないと思います。
- 山名先生の研究が教育現場にどのような影響を与えるのか興味があります。今後の研究成果を期待します。
- 歴史を読み解き事実をつなぎ直す、おもしろさ知りました。「モノ」とそれを意味付ける集団のまなざしの変化をとらえる楽しさ感じました。
- 『もじゃペー』のお話は最高に刺激的でおもしろかったです。帰りの電車の中で資料を読み直し、本が出版されたら是非買って読みたいと思いました。教育における「力」の在り方について考えさせられました(権威、体罰、いじめ、躰、など…)
- 子どもの位置づけ、暴力の問題は学校では日常の営みの中で置きざりにされていた。今日様々な課題が噴出している状況でより本質的な理解が求められていると思う。そういう点でとても参考になった。
- 自分の中の暴力性や衝動性などを見せないようにしてスマートに生きている、とのお話に現代の日本人の姿や昨今の事件等を思い浮かべました。
- 「もじゃペー」初めて知り面白かったです。中学生に読ませて、彼らの中で意見交流をさせてみたいと思いました。

※学生の回答

- 教育と暴力の関係について考えさせられました。今教育の場で感じるやりにくさ、というものとつながる気がしました。暴力性のあるものをどんどん排除して“いいもの”しかない中でどうやって子どもをしつけていくのか、というところが苦しいところではないか。“必要悪”の必要性？誰が悪役を演じるのか？など、疑問があります。

講演「21世紀における図書館—学習空間を考える」：川崎(抜粋)

- 川崎先生のご講義 大変興味深くきかせていただきました。教育がなぜ必要になったのか、というところから考えさせられました。リピーターへのプレゼントサプライズで感激しました。ありがとうございました。
- 昨日に引き続き、読み解くおもしろさ知りました。過去を読み解く中で一つのストーリーが見え、キーワードが浮かび、未来が少し見える気がしました。
- 図書館の歴史が、教育観と密接に結びついていることに驚いた。開架の中に情報統制があるなど、事実をいかにとらえるべきかということについて考えさせられた。
- ああ、こういう学問もあるのだ…と目からウロコでした。まったく新しい見方でした。ありがとうございました。
- 今まで図書館に持っていたイメージが少しかわりました。
- 図書館が大好きなので、校内の図書館をどう発展させていかなどを楽しく構想しながら聞かせていただきました。

- 王権神授説、予定説の1700年代から、民主制の誕生公教育としての学校と図書館の成立など、目からウロコの知識が満載でした。本来の意味を保ちつつ、現代の状況にあった図書館のあり方とは？ということを考えさせられた。
- 図書館は情報源としてすごく興味をもっていました。アメリカの図書館の歴史や文化的背景などをくわしくいねいに教えて頂けて大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 「情報を取得しているつもりが情報を提供していることになる」この発見はおどろきでした。カレーのプレゼントうれしかったです。ありがとうございました。
- 図書館について大きな視点から考えることができました。考える機会は今までなかったのも、民主(衆)化と同時に社会統制の昨日もあることにおどろきました。カウンターと開架・閉架の本の選択が“control”につながられるというお話には目からウロコ。明日から図書館をみる目が変わります。

教科等別分科会：担当講師や登壇者の方へ(抜粋)

- 大変お忙しい中貴重な報告をしていただき、ありがとうございました。北原先生(パフォーマンス課題 47 例)・緻密に設計された試案に先生の情熱を感じ、自分も教育に情熱をもち続けられる教師でいたいと思いました。小中高の系統性が参考になりました。三藤先生、横浜市のきめ細かな研修体制に感銘をうけました。自己の振り返り(メタ認知)とステージに応じた研修について考えさせられました。
- 宮本先生と渡邊先生の実践報告を聞かせていただきました。とてもベテランの先生で「素晴らしい」一言でした。ありがとうございました。
- 非常によい刺激になりました。社会科教師は足でかせぐ!教材研究を日々の生活の一部としていきます。
- 地に足のついたいい実践ばかりでした。見方・考え方の新たな切り口(小中連携、歴史の見方、授業でのグルーピングのあり方、課題をもたせるタイミング)を得ることができました。グループでは、1人の研究授業の予定者の指導案をみんなで検討したので深まりました。よかったです。
- 授業実践レベルの話でとても参考になりました。
- 藤島先生の実践発表とその後のグループ討議が非常に有意義でした。今後の社会科研究へのキーワードをたくさんいただきました。もっともお話が聞きたかったし、お話ししたいと思いました。
- 目指しているところを途中で見失ってしまい、混乱しましたが、だからこそ聞いた、先生方の生の声がとてもよかったです。
- 各地でそれぞれの先生方が取り組んでいらっしゃることを紹介していただくととても参考になりました。「パ課」もはじめに提示し、それに向かって子どもが学習を進めていく…というのが「なるほど」と思いました。見通しをもたせることが大切だと常々考えていたので子ども達にとって興味のある課題を提示したいと思いました。
- 実践に向けて1日目の成果物についてアドバイスをいただいたり、実践例を紹介していただいたりして2学期以降の実践に向けて見通しがもてた。
- 「パフォーマンス課題に取り組む事で日々の授業が改善された」との事。とてもすてきな発表でした。ありがとうございました。

- ・ 西山先生の御発表は、これまでの先生の取り組みの素晴らしさがよくわかるものであり、これから自分がどう動けば良いか、とても参考になりました。
- ・ 英語の赤沢先生、実践報告をしていただいた先生方、ありがとうございました。もっと時間があればさらに深めてお話を聞きたいと思いました。英語化スタンダードについて、さらに多くの先生方に共感をもってもらい、効果的などりくみについて共有し合いたいという気持ちです。
- ・ (英語)お二人の先生ともすばらしいご提案を頂きました。特に西山先生の小・中・高を通した英語教育については、とてもよかったです。ありがとうございました。
- ・ この場で発表、というのはプレッシャーも大きかったと思います。お疲れさまでした。この発表があることで、分科会が活発になったと思います。
- ・ 最後の発表で、どの分科会もききに行きたくなるような内容だった。私の参加した分科会での体育における態度の考え方は、とても興味深く、異質ではダメなのかなあという疑問が残った。若手教員が増える中で研修の必要性は高いと感じた。
- ・ 多くの研究して下さった方のレポートを読むことができ、たくさん元気ももらうことができました。
- ・ 院生や講師の先生のお立場、実践者の多様な校種の中でも、パ課をどうするか、教科するとは何か、など軸がぶれずに本質を多様な考えで捉えなおせる場づくりがさすがです。互いの結びつき、敬意が生むよさを子どもに返していきます。

※学生の回答

- ・ 行政がきっちりカリキュラムやシステムを整えるという考え方でなく、教師を納得させ創意工夫を引き出すという考え方でプロジェクトを進められているという視点が新鮮でした。先行実施をしているからこそその視点だと思えます。スクリプトとテープをもとに他人に伝えるというパフォー課題から、何を見て、どう評価するのか、工夫の余地がある部分は、といった多くの意見が引き出され、英語教育の可能性を大いに感じさせられました。
- ・ 宮本先生の「読む」ということの段階(あるいは側面?)の考え方がとても参考になりました。どう構造化していくのか、考えてみたいと思います。渡辺先生のご実践で、生徒にとっての学びの必然性を喚起するという事に共感しました。パフォーマンス課題の考え方に通じるものだと思います。

教科等別分科会の実践交流タイム:同じグループで交流した仲間へ(抜粋)

- ・ 読みの発達と「本質的な問い」や「ルーブリック」のあり方、示し方について見つめ直すことができた。小学校(中学校)高校という幅広い実践者とじっくり交流することによりいろいろな着眼点ができた。
- ・ とても有意義でした!!なかなか校内ではこういう話ができないので…。小中で話をする事で新たな発見があり、中学で活かせること、中学の授業を見直すヒントがたくさん得られました。中学の指導案検討も授業が楽しみになりました。見に行けたらよいのですが…。
- ・ さらに突っ込んだ話が聞けました。自分の授業のイメージができた。
- ・ 指導の立場の先生、担任の先生、小・中の先生、初めて課題に出会った先生…、いろいろな立場の方の

話が聴けて愉快的時間をすごせました。みなさんありがとうございました。

- ・ 目指しているところを途中で見失ってしまい、混乱しましたが、だからこそ聞けた、先生方の生の声がとてもよかったです。
- ・ 小中高と校種は違いましたが、違っていたからこそ興味あるお話を聞くことができたと思います。
- ・ 現場でがんばっていること、わかりました。共に学んでパフォー課題、ルーブリックを広めましょう。
- ・ 実践に向けて1日目の成果物についてアドバイスをいただいたり、実践例を紹介していただいたりして2学期以降の実践に向けて見通しがもてた。
- ・ 実践交流タイムではより具体的な意見交換ができ、とても参考になりました。使えそうなもの、自分の学校用にアレンジして取り組みそうなものがありました。又、昨日作ったパフォーマンス課題にもいろんなアドバイスをいただけてありがたかったです。
- ・ 校種も違った先生方とお話することができよかったです。少人数でじっくり話せることがとてもよかったです。
- ・ 望月先生にはていねいにご説明していただき感謝しております。
- ・ 同じ時間を過ごすことができ、自分のためになりました。ありがとうございました。一日、一日を大切に、自己学習することが大きな力になることを改めて思いました。
- ・ 多くの研究して下さった方のレポートを読むことができ、たくさん元気ももらうことができました。

※学生の回答

- ・ 自分で作ったパフォーマンス課題について貴重なご意見をいただくことができ、勉強になりました。国語科の内容知と方法知をどうとらえていくのか、国語科と言う教科の特殊性に合うとらえ方、設計の仕方を考えないといけないと気づかされました。
- ・ 「生徒にこんな学びをしてもらいたい」から授業設計をする。しかし、考えた授業から、言語材料以外のチームワークや演出力といったものも含む別の観点も生まれる。評価をどうするかといった迷いの原因はここにあるのかなと感じました。しかし同時にそれは可能性でもあると思います。刺激を受けました。ありがとうございました!

演習『『カリキュラム設計データベース』と『E.FORUM Online』の活用』:中池・松井・西岡(抜粋)

- ・ とてもわかりやすく参考になりました。
- ・ マニュアルがあってもなかなか自分ではやらないので、実際に手とり足とり教えて頂いて、とてもわかりやすかったし、使えそうな気がしてきました。
- ・ 学校で作成した指導案などの入れ方がよくわからなかったもので、その方法もくわしく教えてもらえたら助かります。教科のキーワード入力する時、独自のキーワードを入力できるとよりありがたかったです。
- ・ アクセスの仕方、ゆうべががんばって練習してきました。途中からついていけなくなってしまっ…残念。
- ・ 日夜、ご尽力していただいたおかげで私たちの学びが継続できるのだとあらためて実感しました。背景となることを見抜く力をつけて、子どもの学び合いに活かしていきます。
- ・ EFO を通して、多くの方々と交流したいと思います。そのためには、自分がアップしなければならぬなあ。ぼちぼちがんばります。

その他(抜粋)

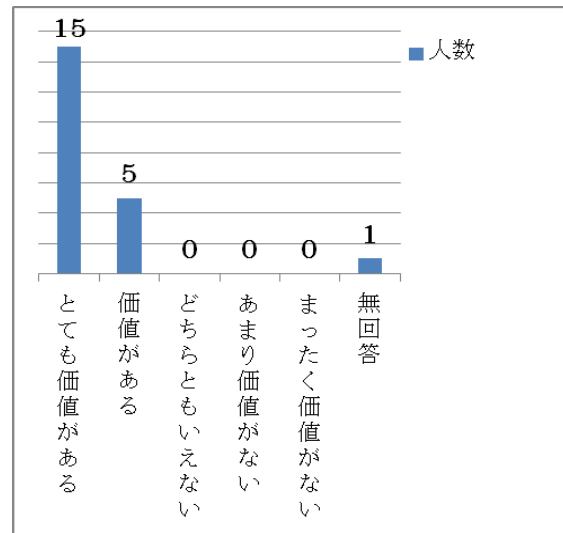
- 今年で3回目の参加ですが、一年目にお話を聞いていてもとても難しいものにとらえていたものが、3年たって少しずつ具体的な会話に加われるようになりました。継続というのは大切なのだなと感じています。ありがとうございます。
- 全体を通して、今回参加してパフォーマンス評価についての理解が一般化?してきていることを実感しました。初めて学んだときはほとんどの現場で(特に高校で)行うのはとても難しいのでは?と思いましたが、現実になりつつある...と思いました。先生方の御尽力のおかげだと思えます。
- 3日間にわたって本当にありがとうございました。次回も是非参加させていただきたいです。

9. E.FORUM へのご意見・ご要望(抜粋)

- またゆっくり博物館を見学したいです。展示の意図を意識しながら...
- はじめて参加しましたが、とても勉強になりました。また考えさせられました。ありがとうございました。明日からの実践に生かしていこうと思います。
- 西岡先生はじめ各先生方、スタッフの皆さん、本年もこういう魅力的な場を提供して下さいありがとうございました。
- 様々な方と交流できる場がとても刺激になります。自分を動かすエネルギー、変わっていくエネルギーもらえたように思います。学ぶこと、知らないを知ることが楽しい2日間でした。
- 発達心理学や臨床心理の専門分野の講義を是非設けていただきたいと思えます。教科の話し合いは分科会が設定されたので満足していますが、現場の教師として必要な心理の知識が欲しいです(3年前くらいは豊富に取り入れられていたと思われそうですが...)。西岡先生、ご登壇の先生方、スタッフの皆さん、暑い中本当にありがとうございました。
- 意義のあることだと思います。粘り強く議論に参加していきたいと思えます。
- 「E.FORUM スタンダード」作りの取組については、そろそろ「E.FORUM Online」の中にそれぞれの分科会ごとのコーナーを作り、スタンダードの試案も掲載して、みなさんの意見をもらいながら改良していても良いと思えます。
- とても刺激に、勉強になりました。ありがとうございました。
- 高校の「情報科」なども入れてほしいです。本当にありがとうございました。
- 分科会の時にパフォーマンス課題とか見ていただけののかな...と思ったのですが、みなさんどんどん先に進まれてしまって私はよくわからないままもんもんしながら夜考えこんでいました。10月に授業でそこを扱うので、とりあえずもう少し考えてやってみようと思えます。
- 三日間本当に御世話になりました。「学ぶことの楽しさ」をほんとに久しぶりに味わうことができました。スタッフの皆様方に心より感謝申し上げます。

「第8回実践交流会」

1. 研修全体に対する評価(人数)



(以下は自由記述による事後評価アンケート)

2. 研修についての評価

自身にとっての成果(抜粋)

- 様々な実践に触れるとともに、ワールド・カフェの手法を体感したこと。
- 様々な先生方から具体的な実践を聴けたのが良かったです。
- 多様な実践の情報が得られたこと。
- 使える実践や理論、考え方を知ることができた。
- パフォーマンス課題は与えられた者も自分の力量、姿を知り、進む方向を明確にできる機会だと感じたこと。
- パフォーマンス課題の取り組みと日々の実践をどうつなげるか、学力差をどう考えるか、少しわかりました!
- 「ワールド・カフェ」を体験できたこと。
- より幅広い視点から、教育実践について学ぶことができました。
- 現場の先生方のお話を聞けたこと。
- 皆さんが評価についてよく勉強されていることを知り、よかったです。
- 自分の実践報告を他の参加者が価値つけて下さったり、ご意見をいただけたことです。

自身がこれから取り組みたいこと(抜粋)

- 実践検討に主体的に参加していくこと。
- やはり、どうルーブリックを作るかで悩みます。
- 授業設計と評価・パフォーマンス課題の到達点は何か。
- ワークショップなどで出た意見をまとめ、発表すること。
- パフォーマンス評価について、もっと知って使い役立てること。
- 初任者研修という形に具体化していくこと。
- パフォーマンス評価の実践をより広げていくにはどうすればよいか、若手の育成を含めて考えていきたいと思えます。
- 現場の先生方の真の意見がもっと多く聞けたらよいと思えます。

- ・ 系統的に P 課題を自分の授業に取り入れること。
- ・ 生徒の力を伸ばす授業をしたいです。

研修の良かった点 (抜粋)

- ・ スムーズな進行。
- ・ 絶えず、なごやかな雰囲気なのが良かったです。
- ・ 参加者間の交流が沢山できた点。
- ・ 昨年までのルーブリック基礎もよかったです、今年の学生さんたちがファシリテートする形もおもしろかったです。
- ・ 密度の濃い内容をスムーズかつ効率的に進められました。
- ・ 声だけでなく、書いて残すことで視覚的につながった気がします。
- ・ 体験型の研修ができたこと。
- ・ 様々な方と話す機会がもてたこと。
- ・ 共に語り合い時間にしばられることなく、充実した時間をもつことができました。大きな区切りが良かったです。
- ・ みんな一緒に学習できた所。
- ・ グループのわけ方がよかったです。また、グループ毎の協議でしたので、内容を深く聞くことができました。

改善すべき点 (抜粋)

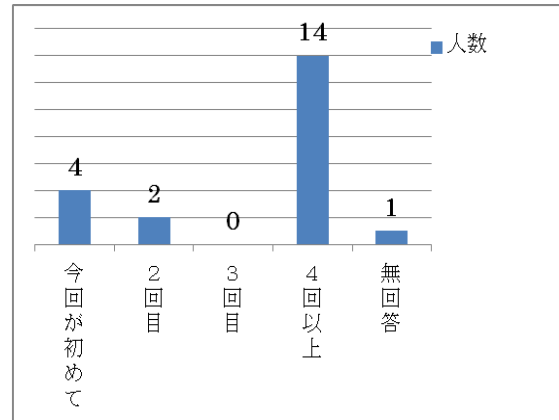
- ・ 昼食の時間を交流会の途中に置くよりは、各グループの交流後になる方が良いと思います。あと、夜に懇親会があつて欲しいです。
- ・ タイムスケジュールを黒板に書くなどしたら、時間配分もうまくいったのではないかな。
- ・ もっと時間がいっぱいあつたらいいなと思うこと位かな？
- ・ WC、もう一周しても良いかもというくらいあつという間に時間が経ちました。[スライド(OHC)が少し暗くて見えづらかったです]
- ・ 学生参加者の方々に頼りすぎたかもしれません。
- ・ グループの発表者を学生さんがしてくれるのか、ファシリテーターは自由に決めてよいのか最初に教えていただけたら有り難かったです。

3. ワークショップの講師を担当して下さった先生方・資料提供をして下さった先生方へのメッセージ (抜粋)

- ・ ワールド・カフェの技法を体験するのは初めてでしたが、非常に面白かったです。
- ・ 少しでも子どもたちの理解を深めたいという教師の思いが、実践を通じて伝わってきました。大変さはいろいろあっても、まず取り組んでいることに価値があると思います。よりよいものを目指して、今後の実践をまた情報伝達していただけたら勉強になります。
- ・ 同じテーブルで直接お話を伺うことができ、とてもラッキーでした。教科は違いますが、現場の参考にさせて下さい。
- ・ 実践から生まれた知恵の力強さを感じました。
- ・ 貴重な実践報告とコラボレーションを提示していただいて本当にありがとうございました。
- ・ 毎回、熱心な取り組みをなさっているので、とても刺激になります。私もがんばらねばと思います。すごいです！！

- ・ あなたの人を巻き込む力は天性なのでしょうか？学んでつけられるものなののでしょうか？次回会えることを楽しみにしています。
- ・ 教師の力量形成という課題についても私にとっては切実な問題でした。たくさんのお示唆を得ることができました。

4. 過去の E.FORUM 研修への参加回数



5. その他 (抜粋)

- ・ E.FORUM の交流会へ参加するのは初めてでしたが、とても楽しかったです。石井先生、スタッフの皆さんお疲れ様です！
- ・ 生徒に学ぶ楽しさを実感させる授業の組み立てや声かけなどを追及していきたいです。
- ・ お茶もおいしくいただきました。